

分館事業 清川泰次記念ギャラリー

平成22年度 第1期展

清川泰次と 1950-60年代のアメリカ

会期:4月1日～7月25日

入場者数:1,088人

担当者:村上由美

清川泰次は、戦後比類ない隆盛を極めたアメリカ美術を直に体験すべく、1951年、シカゴにいた後援者をたよりに、数週間かけて船で海を渡り、大陸横断バスでシカゴを目指した。しかし、シカゴに着いて2週間も過ぎないうちに、その後援者が急逝し、一人になった清川は、安下宿を探し、アルバイトをしながら、絵の制作を続け、3年間のアメリカ生活を送った。そこで、日本に居た頃から疑問を抱いていた具象画への疑問をふつぎり、抽象的な表現へと向かっていった。そして1963～66年の3年間、再び研鑽を積むためにアメリカに在住し、より研ぎ澄まされた世界を求め、1970年代の白を基調とする独自の画風「白の世界」シリーズへと展開した。

本展は、清川泰次の2度にわたるアメリカ時代の作品を、当時の日記の文章とあわせて紹介した。日本では味わえない日常の煩雑さから切り離れ、集中して作品制作を行うことができた、アメリカ滞在は、清川泰次の作家人生の中でも極めて充実した時間だったといえるだろう。

また清川泰次は、アメリカ滞在中、学生時代から興味を持っていたカメラで、現地の様子を写真におさめていた。そこには、1950～60年代の摩天楼が立ち並ぶ、当時のアメリカの繁栄振りが写し出されており、こうした写真も併せて展示した。



B2 ポスター

出品目録

No.	作品名	制作年
1	《黒のアブストラクト-52》	1951-52
2	《黒と赤の三角-54》	1952-54
3	《アブストラクト・イン・シカゴ》	1954
4	《Painting No.100M-54-5》	1954
5	《黒の中にみどりの光がある風景》	1954-55
6	《谷間の街(黒とグリーン)》	1956
7	《Painting No.SF364》	1964
8	《Painting No.SF3164》	1964
9	《インディアンレッドと黄土色》	1965
10	《Painting No.NY1766》	1966
11	《左半分黒のF6-67》	1966-67
12	タイトル 不詳	1960代
13	タイトル 不詳	1960代

資料 カラー写真 1950年代撮影 14点

白黒写真 1960年代撮影 16点
アルバム、日記、DMなどの資料

展示風景



平成22年度 第2期展

会期:7月31日~11月28日

入場者数:858人

担当者:村上由美

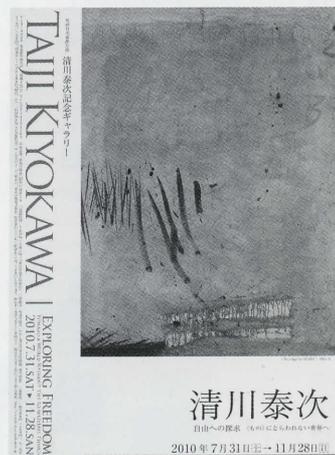
清川泰次 自由への探求 〈もの〉にとらわれない世界へ

清川泰次が、慶應義塾大学経済学部の予科に入学した昭和11(1936)年、「二・二六事件」が起きた。大学入学後まもなく体調を崩した清川泰次は、しばらく休学し、その間に写真と油絵を始めた。そして再び大学へ通い始めた昭和16(1941)年に太平洋戦争がはじまった。教育召集で軍隊生活や勤労奉仕などを体験し、清川泰次が大学を卒業したのは、大太平洋戦争も末期となった昭和19(1944)年の25歳の時。清川泰次が学生として過ごした時代は、まさに日本が戦争へと突き進んでいった時代であった。

戦後間もなく、具象画に疑問を抱いていた清川泰次は、本当の絵とは何か、本当の油絵とは何かを探求すべく、当時、抽象絵画の潮流の中心となっていた自由の国アメリカへ渡った。この渡米途中の船上で居合わせた一人の僧侶との出会いが、清川泰次に「無」への世界の扉を開かせた。戦後の景気で〈もの〉に溢れた物資文明のアメリカに渡り、清川泰次が獲得したのは、意外にも〈もの〉から解放された世界であった。

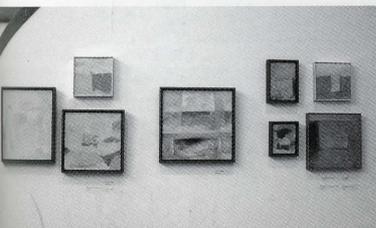
本展は、清川泰次の初期の具象的な作品から、〈もの〉にとらわれない自由な作品へと展開する過渡期の作品を中心に、彼の詩などの言葉とともに紹介した。

また、戦争によって激動の社会変化を経験した清川泰次にとって、本当の自由の意味とは何だったのか。本展では、清川泰次が学生時代、戦時中の日常を撮影した写真や日記も併せて展示し、清川泰次が抱え込む時代背景を含めて、彼が探究した〈もの〉にとらわれない世界について考察した。



B2 ポスター

展示風景



出品目録

No.	作品名	制作年
1	タイトル不詳	不詳
2	《仮面のある》	1953
3	《ピリジャンでおおわれた作品》	1955頃
4	《グリーンの構成-56》	1956
5	《Lavender Poem-59》	1958
6	《走る太陽》	1959
7	《Leaving Her Nest (巣立ち)》	1959
8	《早い夏》	1959
9	《白の中に右下にピリジャン》	1960
10	《オキサイドグリーン丸の丸いかたまり》	1960頃
12	《二つの家》	1960頃
13	《白-100M-62》	1962
14	《ピンクの虹-62》	1962
15	《Painting No.334-62》	1962
16	《ブルーと紫》	1962
17	《白の中のパールグリーン》	1962
18	《ピリジャンの絵》	1962頃
19	《Painting No.662-3 黒い雨》	1963
20	《Painting No.SF3564》	1964
11	《紫のある風景》	1970頃
21	《白の中の一本の線》	1972
22	《白の中に白い点々》	1977

資料 白黒写真 戦時中撮影 13点

羊面帳(第壹巻、第参巻、第四巻、第六巻) 1946年

日記 1942年(昭和17年) 1冊

参考図書 『臨濟録』岩波文庫、朝比奈宗源師訳註

平成22年度 第3期展

清川泰次 色と形のシンフォニー

会期:12月4日～2011年3月21日

入場者数:779人

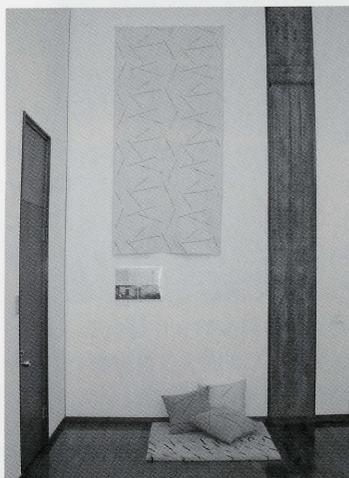
担当者:村上由美

様々な形や色彩がリズムカルに構成される清川泰次(1919-2000)の作品。清川泰次は、こうした絵画作品による抽象の世界を日常生活の様々な場面にも展開させていった。動きのある線や、シンプルな色彩によってデザインされたカーテンやカーペットといったテキスタイル、そして食器などの日用品に応用された清川泰次の仕事は、モダンなライフスタイルのアクセントとして、居住環境を豊かに彩る。そこには、どんな時でも、どんな場面においても常に「美」

を意識することを求め続けた清川泰次の姿を伺い知ることができる。本展では、清川泰次の絵画作品を中心に、立体作品や、生活デザインに応用された仕事を紹介した。また、小展示室では、清川泰次が学生時代に撮影したモダン感覚に溢れた写真を展示し、清川泰次の一貫した美意識を紹介するほか、ミュージアムグッズでも取り扱っているデザイングッズをそのアイデアスケッチと併せて展示した。



B2 ポスター



展示風景



出品目録

No.	作品名	制作年
1	海の見える街-56	1956
2	Quietude(パールグリーンの街)	1956
3	白の中の鉛筆の風景	1956
4	《Painting No.1483》	1983
5	《Painting No.1083》	1983
6	《Painting No.684》	1984
7	《Painting No.884》	1984
8	《Painting No.1984》	1984
9	《Painting No.4090》	1990
10	《Painting No.4190》	1990
11	《Painting No.4590》	1990
12	《Painting No.5491》	1991
13	《Painting No.1294》	1994
14	《Painting No.3194》	1994
15	《Painting No.1494》	1994
16	《Painting No.1594》	1994
17	《Painting No.994》	1994

18	《Painting No.1295》	1995
19	《Painting No.1495》	1995
20	《Painting No.1595》	1995
21	《Painting No.1195》	1995
22	《Painting No.2995》	1995
23	《Painting No.3095》	1995
24	《Painting No.2196》	1996
25	《Painting No.2296》	1996
26	《Painting No.2396》	1996
27	《Painting No.4196》	1996
28	《Painting No.4296》	1996
29	《Painting No.897》	1997
30	《Painting No.697》	1997
31	《Painting No.797》	1997
32	《Painting No.5591-97》	1997
33	《Painting No.497》	1997
34	《Painting No.5190》	1990
35	《Painting No.2194》	1994

参考出品

白黒写真 昭和10年代頃撮影 13点

立体作品 《Stainless Object C-3 No.3891》1991年 ステンレス

《Stainless Object NIJ-2 No.3191》1991年 ステンレス(小展示室)

スケッチブック4冊、スケッチ4点

グッズ 食器類13点、ランチョンマット4枚 ファブリック類(マット1点、クッション3点)